



町の国民健康保険は今

危機的状況をどう乗り越えるか

国民健康保険（国保）運営協議会が答申 1月10日に協議会が開かれ、町長から国保会計の危機を乗り越えるための対策について諮問がありました。2011年度の赤字額は2億8千万円にのぼり、これをすべて次年度に見込まれる国保税収入（約3億2千万円）をあててなんとかつじつまを合わせているという状況です。保険料が100%徴収できたとしても、そのほとんどが赤字分の補てんに消えてしまうこととなります。また累積した滞納額は1億4千万円にのぼり、その額はここ数年減っていません。一方、八丈町の国保税は都内でも、また離島の中でも比較的高く、これ以上値上げすることは困難です。今回の諮問は、この赤字（将来収入見込みのある滞納額を除く）を一般会計から繰り入れて補てんし、収支のバランスを整えていこうというものです。各委員の意見を聞き、町に答申した内容は「国保会計の健全化のためには、一般会計からの公費投入もやむを得ない」というものです。全国どこの自治体も国保会計は厳しい状況にあり、八丈島も同様です。ここで国保会計を圧迫するいくつかの要因を考えてみました。



●**年齢構成・景気の変化**——八丈町では全人口に対する高齢者の割合が増加し、結果として年々医療費が増加しています。一方、景気の低迷で所得が減少し結果として税収が減っていることも、構造的に赤字となる要因となっています。

●**会社員・公務員の退職者**——民間の会社員や公務員は、退職と同時にこれまで入っていた社会保険や共済保険から国保に入ります。退職後ということは高齢者が加入することになり、病気にかかる確率が高い保険者の割合が増すということを意味します。税額は所得の多少で決まってくるものの、結果として使われる医療費（医療給付費）が多く、負担が増えています。

●**他会計への支出**——国保会計の収入から自動的に他の会計に支出される制度があります。そのうち大きなものが、後期高齢者支援金や介護保険に出す納付金で、あわせて約2億7千万円にもなります。このように、国保会計を圧迫する制度的な問題が存在しています。

●**累積する滞納額**——税金の滞納や水道料など利用料の未収金は、いつも町の財政を圧迫していますが、国保税はもともと金額が高いこともあり滞納が多くなっています。滞納者の多くは多重未払い者であり、行方不明や死亡など回収が困難な事例も少なくありません。町は少しずつ不納欠損処理をしています。

住民へ説明を 町は12月議会で、税徴収の専門家を任期付職員として採用し、滞納対策を強化する意欲を示しました。一方、一般会計からの公費投入については、他保険の加入者の理解も必要で、町は住民に十分な説明をする必要があります。国保の加入率は50%に届きません。残りの50%の住民の税金も使うことに対しては、わかりやすくていねいな説明をしてほしいものです。

スケールの大きな道の駅

群馬県川場村への視察

「農業と観光」これが川場村の村づくりのコンセプトでした。すべての施策や事業がこの目的のために進められ、しかも代々受け継がれてきたことに驚きました。八丈町の観光施策に役立つヒントがたくさんありました。

田園プラザ

このテーマに沿ってつくられたのが今回訪れた「田園プラザ」です。一般的な農産物の直売所とは異なり、工場生産から販売までの一貫したものづくりを目指している大規模な「道の駅」で、関東では一番人気を誇っています。

構想から完成まで5年を費やし、平成5年に株式会社として発足しました。まずミルク工房がスタートし、その後農産物市場（マーケット、写真上）、ミート工房（写真下）、そば処、ビール工房、パン工房、レストランが次々につくられていきました。総工費31億円のうち、20億円は起債です。村の年間予算が20数億円であることを考えると、「賭け」に近い思い切った計画だったと思います。成功の秘訣は、それぞれの施設のポイントを絞った経営にありました。



- ・ **ミルク工房** —— 生産コストの無駄が出ないように「飲むヨーグルト」と「アイスクリーム」に特化しました。村の様々な施設に必ず「飲むヨーグルト」が置かれていて、とてもおいしく、120円とお手頃価格でした。

- ・ **ミート工房** —— 村と提携している世田谷区在住のドイツで修業した職人が、村の方針に共鳴して川場村に移住し、現在も工房長として活躍しています。工房長は、商品開発だけでなく販売戦略にも力を入れています。



- ・ **ビール工房** —— 一時はブームだった地ビールが軒並み廃業を強いられている中、この工房が人気を保っているのは味の良さでした。サッポロビールの技術支援が大きな力になっています。

- ・ **直売所のマーケット** —— 高齢の就農者が各々持ってきた野菜などに自分で値をつけて販売するしくみです。300人以上の登録があり、売り上げに個人差はあるものの、収入を得ることで生きがいになっているそうです。

世田谷区民健康村＝世田谷区との交流

自然を求める世田谷区民の要望と農林業の振興をめざす村の施策とが一致して生まれた施設です。長い準備期間をかけて実現したもので、20年の歴史があります。区内の小学校約60校を対象に授業の一環として5年生の体験学習を実施しています。期間は4～6月と9月～11月。その他の期間は世田谷区民や一般の人に開放しています。児童は2泊3日の日程で農作業や林業など、都会では触れる機会の少ない作業を体験します。見学した際も、宿泊している児童たちのにぎやかな笑い声があふれて、この活動の意義を実感しました。八丈の場合、離島であることや変わりやすい天候のため、授業として計画することはむずかしいと思いました。ただ、山梨の子供たちとの交流のように、県単位で希望者を募るという方法で、たとえば東京都内の子供たちを対象に体験学習を行うことは可能かもしれません。



2012年12月議会 一般質問



<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>

1. 高齢者総合計画はどのようなものか

来年度、町は高齢者総合計画をたてるとのことですが、町も少子高齢化が進み、高齢者が暮らしやすい町にするための施策の方向性を打ち出すことは重要であり、これを評価した上で計画の内容について伺います。

- ・ 計画の背景と目的はなにか
- ・ 高齢者福祉策の将来像は現場の声を反映したものに

町 (1) 総合計画は、長期的には国の地域福祉計画に沿ったものではあるが、社会環境の変化にあわせて町独自に中期的計画を住民に示すことが重要であること、さらに国や都へ要望する際の根拠を示す意味でも必要と考える。(2) 住民の声を反映させたものにしたいが、協議会の委員の構成はこれから考える。

幸子 八丈では民間の事業所が充実している。現場の事業所の声を反映すれば、失敗のない無駄のない計画が生まれると思う。財政力の乏しい町であれば、なおのことコンサルに頼らない計画づくりを進めるべきと思う。

町 専門家を外部から呼ぶことはあるが、基本は独自に作りたいと考えている。

2. 文化協会に対し町はどのような支援をするのか

10月に待望の文化協会が設立されました。文化活動に対する町の支援は十分ではありません。島の文化振興のために町はどのような支援をするのか。

- ・ 財政的支援の根拠と規模は
- ・ 集会施設の運営委託を含め、協会の役割をどう考えているか

町 (1) 文化協会はまだできたばかりで組織の内容を把握できていないので、支援の規模は明らかにできない。(2) 集会施設の管理運営については、まず公募で町民の意見を取り込み、管理運営協議会をつくる。文化協会がその役割を担うには多くのプロセスが必要で時間がかかるので、役割については1年くらい様子を見て協会の力がついてきてから考えたい。

幸子 当面来年度の予算にはどう盛り込まれるのか

町 協会の実態が明らかになるまでは、従来どおりの支援をしていく。

3. 末吉地区振興策の一つとして、保育園をデイサービスの事業所に

以前、末吉小学校閉校後の跡地利用と地域振興策について質問したが、末吉地区の振興を考えると、保育園も含めて検討してほしいと思う。跡地利用の際の必要条件とされている、「人が集う」「雇用の創出」を考慮すると、末吉保育園を高齢者が集う場所として活用するのもひとつの選択肢だと思う。

(1) 保育園をデイサービスの事業所として活用する考えはないか

町 これまで3回の意見交換会を行ない様々な案が出されている。提案のデイサービスは、受ける事業所があれば検討してもいいが、週に1-2回では採算が合わず難しいのではないかと。今年度中は意見交換を続けるので、その中の一つの案として考えたい。

幸子 事業所としてでなくても試験的に始められないか。

町 意見交換会で選択肢の一つとして提案したい。

12月議会から

12月議会は、議論が盛り上がりました。その中から私の発言をまとめました。

●ヘルパー不足が叫ばれているなかで、ヘルパー養成講座の再開は。

町——主に現在働いている事業所の職員を対象に、30名程度を考えている。

●保育園の統廃合にともない解体が進んでいるが、跡地利用の計画は。

町——南海保育園は駐車場にした。真砂保育園は子供たちの遊び場として整備する案が浮上しているが、まだ検討中である。

●シルバー人材センターで2年前サツマイモの栽培をしたが、その販売収益をセンターの運営費にできないのか。

町——昨年規則が変わり、公益法人は利益を生む事業はできなくなった。センターでは販売はできなくなり、イモの栽培も中止している。

●牧野管理費に休憩舎の電力を供給しているジーゼル発電の燃料費が入っているが、これは本来観光費として計上すべきもの。ふれあい牧場は重要な観光スポットであり、休憩舎を含めこの場所をより重点的に整備しなおすべきだ。

町——今後八丈富士全体の観光利用を視野に、検討させていただく。

●中学生の体力が低下していると聞くが、対策は立てているか。

町——体力低下は全国的な問題。マラソンなどのイベントが中止されている状態なので、再開を考えたい。スパイクの中止についても見直しを検討したい。

●小中学校のパソコンリース料はそれぞれ毎月100万円くらいかかっているが、その成果は把握できているか。時代の要請でもあり将来必ず役立つ技能なので、力を入れるなら成果をはかる仕組みが必要。コンクールなども考えてほしい。

町——現在成果をはかる仕組みはない。調査し、前進させたい。

●これまで島外へ輸送していた粗大ごみを破碎する機械（約1500万円）の導入が決まったことは大歓迎だが、どこに置くのか。また、粗大ごみについては他の自治体のように有料化すべきと思うが。

町——破碎機は有明興業の敷地の屋内に設置する。有料化等についてはゴミ処理問題協議会で検討していきたい。

編集後記

2月3日、節分の日に全島で小学校の学芸会がありました。私は大賀郷小学校で元気な子供たちを見てきました。すべての学年が全員参加で、合唱、合奏、劇を力いっぱい披露する姿に熱いものを感じました。しかし各学年の人数は20人前後と少なく、寂しさは否めません。町は様々な子育て支援策を打ち出してはいるものの、なかなか出生率は上がりません。子供たちの明るい声が島中にひびく日が一日も早く来るよう、取り組んでいきたいと思いました。



さちこのニューズレター
第四〇号/二〇一三年二月
編集・発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子